2004 三者若手秋の総会 議事録

文責：2005 三者事務局 名古屋大学

2004.9.29 秋の学会@高知大学

1　2004 年度夏の学校決算報告 (センター校：東京大学)

2004 年度三者センター校より決算報告がなされた。決算は承認された。

2　DC アブストについて (東京大学)

DC アブストの現状について東京大学から説明があった。DC アブストの認識を高めるために行った幾つかの手段の説明がなされた。
・DC アブストという実体が伝わりにくい呼称を「若手研究紹介」に変える
・発表者を個人、研究室単位不問とし、体裁も自由にする
・発表物を素粒子論研究に投稿する
しかし、いまだに投稿数が少ないということが報告された。

Q：DC アブストの存在をどのように広め、また情報の開示をどのように行うのか？
A：４月の若手名簿更新時に原稿の募集を行い、同時にその意義についての説明も行う。
Q：原子核の人は素粒子論研究に投稿してもらっても意味がないのではないか。
A：投稿内容を広めるのが目的なので、原子核系の研究誌にも投稿した方がいいかも知れない。

そして東京大学は DC アブストの呼称変更を議題に提出した。

しかし
・現状は DC アブストの存在そのものが認知されていない
・そのような状況でこの制度を続けることにそれほどの意義はあるのか？
という意見が挙げられた。

更に

- 名称の変更よりもその認識を改めなければ意味がない
- そもそも三者センター校の仕事としてふさわしいか？
- 意義がないなら、制度そのものをやめてはどうか？

との意見が出て、議論が行われた。これらの問題について
「今まであらたまった議論がされてこなかった。今一度この問題を皆で考えるべきではないか。」
という意見が出た。(今回の秋の総会で議決をとるという案も出たが、それは見送られた。)

その結果次のようにまとまった。

- 今回は「DC アブスト呼称変更」の議論は見送られることとなった。
- 2005 年夏の学校の三者総会にて、DC アブスト制度の存続の是非について議論することになった。(議案として挙げられることが内定した。)
- DC アブストが存続することが決まれば、その後にその意義や名称変更を議論する。

3　2004 年度夏の学校決算報告 (準備校：金沢大学)

2004 年度三者準備校より決算報告がなされた。決算は承認された。
夏の学校のアンケートについて、準備校分の結果は近日中にメールで発表するとのこと。

4　2005 年度夏の学校予算案 (センター校：東京工業大学)

2005 年度三者センター校より予算案の報告がなされた。予算案は承認された。

5　2005 年度夏の学校会場 (準備校：大阪大学)

2005 年度三者準備校より、夏の学校の会場の予約状況について報告がなされた。各パートの部屋割りについては後日メールで連絡するとのこと。